

地域の概要及び課題

【地域の概要】

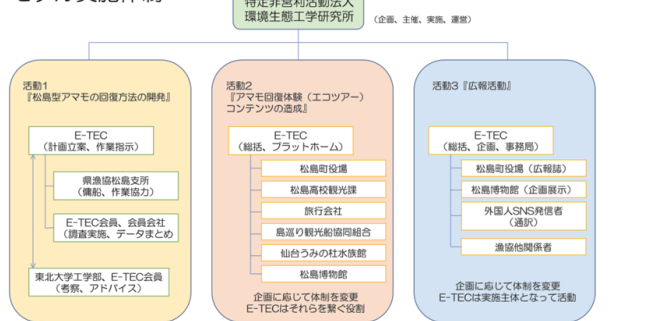
- 美しい多島海の景観をもつ松島湾は、伝統的な仏教の修業の場、文学・文化的な発想の場であった。また牡蠣、ワカメ、ノリなどの水産業が盛んに行われている。これらの魅力は松島湾の多様な生態系が支えてきた『里海』といえる。

【課題】

- 東日本大震災により生態系の基盤となる藻場が99%消失した。近年では夏季の高水温の影響もあり、長期的な藻場の回復活動が必要である。

取り組みの実施体制、連携

モデル実施体制



松島湾
宮城県松島町



R 6 年度モデル事業における取組内容および成果

松島型アマモの回復方法の開発-1

■ 松島湾藻場分布調査



【成果】

2024年度の松島湾全域における藻場の分布状況を行い、震災後の回復状況を確認 (0.3%) した。このデータは継続的に蓄積しており、課題を整理する基盤を形成できた。これらの結果は右記の具体的活動に繋げることができた。

松島型アマモの回復方法の開発-2

■ 移植方法の開発 (実証実験) とモニタリング



【成果】

夏季の高水温による影響で母草の入手が困難な状況があり、実生株の入手 (採取) 方法や植栽方法について現地での実証実験を行ったが、移植環境の変化など新たな課題が浮上した。

アマモ回復活動体験 (エコツアー) コンテンツの作成

■ 自然環境を学べる教育旅行のプログラムを検討



【成果】

松島湾の自然環境を学ぶプログラム (遊覧船での講話・藻場造成活動体験) を作り、松島を訪れた教育旅行生に体験してもらい、好評を得るとともに今後の改善点について整理することができた。

広報活動

■ 松島湾の藻場の現状等について広く知ってもらおう



【成果】

環境活動等を紹介するポスター展に参加し松島湾の藻場の現状を一般の方々に広報した。松島湾で行っている里海づくりの活動を、広く見える形でPRすることの重要性を理解した。

今後の課題および 取組方針

- 本事業で実施した活動については、実際に行うことで課題が明確となってきた。
- 自然環境下で行うこれらの取り組みについては単年度での成果は得づらいため、引き続き解決にむけた知見の蓄積をしていきたい。
- 里海としての松島は、『人の手が増えられることによってその価値を持続できたもの』であり、今後とも多くの人々との協働の下、持続利用が可能な地域づくり活動を目指していく。